



日本共産党
北茨城市委員会
〒985-0801 茨城県北茨城市
毎週日曜日発行
インターネットでも
ご覧いただけます
http://www.jcp-kib.com/

ご相談は
お気軽に
市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

地域医療の切り捨てにつながる 国の「公立病院改革ガイドライン」

公立病院を守れと日本共産党が国に要請 北茨城市議団も現場の声を届ける



大名みえ子、川崎あつ子両東海村議(中央の2人)と、
福田明、鈴木やす子両北茨城市議。



市立病院の実情を訴える福田議員。(衆院議員会館内)

国が昨年暮れに発表した「公立病院改革ガイドライン」について、日本共産党国会議員団北関東ブロックは2月6日、衆議院議員会館において総務、厚生労働の両省から説明を受けると同時に、公立病院を守るための要請をおこないました。

これには塩川鉄也衆院議員のほか、公立病院をかかえる茨城・栃木・群馬・埼玉の各地方議員が参加。北茨城市の福田明、鈴木やす子の両議員も参加しました。同ガイドラインは、病床利用率が過去3年間連続で70%未満の病院に病床数の削減や診療所への転換を求めると、地域医療のいっそうの切り捨てにつながるものです。

総務省の担当者から「自治体病院は4分の3が赤字。必要な医療を引き続き提供するには抜本的な改革が必要」、厚生省側からは「医師数全体では増えており、問題は地域や診療科により偏在していること」と説明がありました。

これに対し、塩川衆院議員は「医師不足や診療報酬マインナス改定などが構造的に公立病院の経営を困難にしている。医師数が絶対的に足りない状況に対し、国が

支援策を取るべきだ」と述べました。各地の議員からも発言があいつぎ、福田明議員は北茨城市立総合病院の実態について「大学の医師大量引上げによって、一時は病院存続の危機に見舞われた。行政・議会が一体となって医師確保に奔走し、病院を維持しているが、医師は過重労働で、健康が心配」と述べると同時に、「厚生省の方針がコロコロ変わり過ぎて、そのたびに経営が大変になる。政府は公立病院の実態をよく見てほしい」との現場の率直な声を紹介しました。



福寿草
(関本町富士ヶ丘)

さらに「同ガイドラインに沿って県が来年度中に『公立病院改革プラン』を策定するよう指導しているが、そのさい、各自自治体の意見が最優先されるのか」と質問。総務省側は「ガイドラインはあくまで各自自治体が改革プランを策定する際の助言をおこなうもの」と答え、強制ではないとの考えを示しました。

市議会 全協

予算案の概要を市長が説明

2月7日、市議会全員協議会で、来年度予算案の概要が市長から示されました。歳入は約142億円で8600万円の減、市税部分では1億4000万円減の、きびしい見通しが強調されています。

事業では、3才未満児の医療費無料化、第3子からの出産祝金、学校のトイレの洋式化、小学校へのAED設置、ふれあいセンター改修などの計画があります。南中郷工業団地への企業誘致について、以前から計画のあった業者が2月中旬に県と契約を結ぶ予定です。このほかに1社当面50人の雇用が進出し、さらに春先にはもう1社が見込まれています。

市立病院の医師体制は、現在の19名についてはそれぞれ派遣先に働きかけ、現状を維持できることが報告されました。

なお、新年度予算は、定例市議会を前に2月26日に内示会が開かれる予定です。



茨城管楽合奏団

2月3日、市役所のロビーで茨城管楽合奏団(篠原和彦氏指揮)のコンサートが開かれました。最前列の席で聴いていたある市民は「あっという間の2時間だった。とても感激した。やっぱり生の音楽はすごい。むかし一度だけ行ったことのあるヨーロッパの風景が浮かんでくるような気がした」と語ってくれました。